姦・張飛
やで

ウチは夏休みに温泉に遊びに来た。
入るんはもちろん混浴や。
うまそうなチ○ポ持った男おらんかいな。

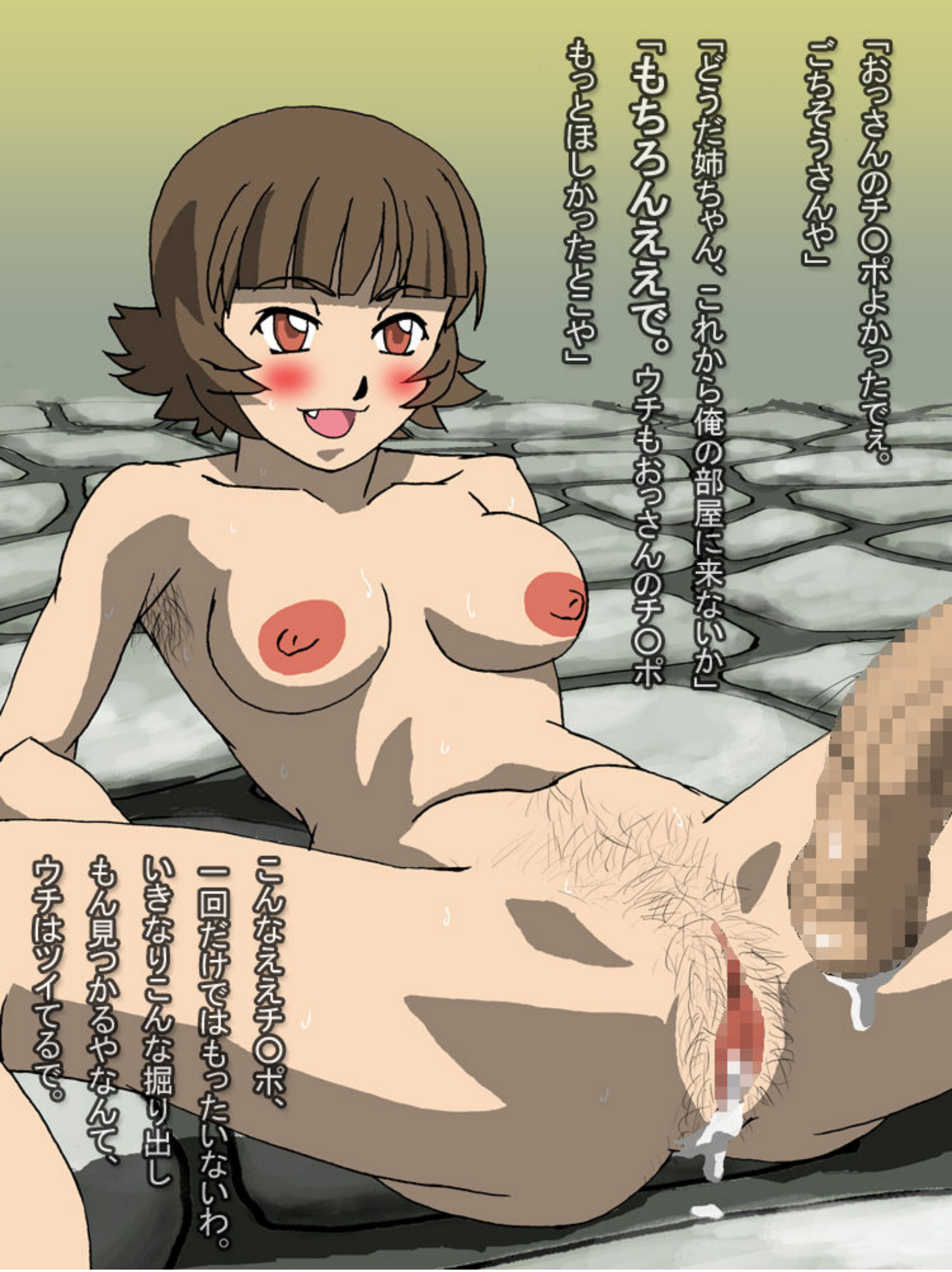
「姉ちゃん、いい身体してるな」
「おっさん、いきなりウチの乳を
揉むとはエエ根性しとるやないか。
気に入ったでぇ。
なぁ、おっさんのチ〇ポも見せてんか」

「おっさん、ええモノ持っとるやないか！」
「今度は姉ちゃんのを見せてくれよ」
「なんや？ウチのお〇こが見たいんか。
もちろんええで」

ウチは湯舟からあがると、
足を開いてお○こを突き出した。
おっさんは早速ウチのお○こをいじくり始めた。
ますます気に入ったでぇ。ウチその気になってきたわ。
お○こもどんどん濡れてきたで。
「どや、ウチのお○こは。
だいぶ使い込んどるから
見た目はいまいちやけどな、
使い心地は最高なんやで」

「ここまできたら、もう止まらねえぜ」
「わかってるがな。二人で楽しもやないか。
もちろん中で出してええで。
男は種つけてなんぼ、女は孕んでなんぼや」

うわ、このおっさんめちゃ上手いわ。
ウチはあっという間にイカされてしもた。
おっさんはウチがイクのに合わせて中出ししよった。
ウチは中出しされて思いっきりイってしもた。
このおっさん、女の悦ばし方よう知っとるわ。


「おっさんのチ○ポよかったでぇ。ごちそうさんや」
「どうだ姉ちゃん、これから俺の部屋に来ないか」
「もちろんええで。ウチもおっさんのチ○ポもっとほしかったとこや」
こんなええチ○ポ、一回だけではもったいないわ。いきなりこんな掘り出しもん見つかるやなんて、ウチはツイてるで。

ウチらは旅館に泊まってるあいだ姦りまくった。
このおっさん、最後は絶対お○この中に出しよる。
ウチの身体のことやぜんぜんお構いなしや。
ますます気にいったでぇ。やっぱ男はそうでないと。
男はおなご孕ませてなんぼやからな。

ウチらの身体は相性がええのか。
お互い相手の身体でたっぷり楽しんだ。
ちゅうても、ウチのほうは
イカされっぱなしやったけどな。
どうやら、チ○ポとお○この勝負ではおっさんの方が一枚上手のようや。

ウチの身体はおっさんにすみずみまで味わいつくされてしもた。
しまいには、ウチの身体はおっさんの
思うがままになってしもた。
もうウチの降参や。
ウチの身体、おっさんの好きにしてんか。

「ぎょうさん姦ったなぁ
見てみぃ、うちの穴、口開けたまま閉じへんわ。
仔袋もおっさんの子種でパンパンや。
これぶんやとウチおっさんの仔孕んどるかもしれんでぇ。
ほんまにできとったら、どないする？（喜々）」

「そん時は俺の女にならねえか？」
「な、なんやおっさん本気やったんかいな（テレテレ）。
でもかんにんや。おっさんの気持ちは
ほんまにうれしいんやけど、
今はおっさんのモノにはなれんのや」
「それなら俺の子供だけでも産んでくれよ」
「それやったらもちろんええで！」

「よっしゃ！ おっさんがその気なんやったら、
ウチ絶対おっさんの仔産むでぇ。
ウチ何度も孕んどるけど、まだ仔を産んだことないから
いっぺん産んでみたかったとこや。
おっさんの仔やったら大歓迎や！
そうと決まればガンガン姦るでぇ。
どんどん種仕込んで、早うウチの的に当ててや！！」

それからウチはおっさんの家に行って(本宅やないやろけどな)、
夏休みの間中、仔作りに励んだ。
ウチの身体はおっさんに
たっぷり可愛がられて、
トロトロに蕩けてしもた。

ウチはおっさんのなすがままになってイキまくった。
ウチの子宮は下がりっぱなしや。
身体のほうも
孕む気まんまんやで。
やっぱりウチらの
身体の相性は最高や。

いままで孕むことや気にせんと誰とでも生で姦っとったけど、
仔作りのために姦るんもええもんやな。
こうして二人で仔作りしてると、
身体だけやのうて心まで
繋がってる気がしてくるわ。
ウチ、このまま
この人のモノに
なってしまいそうや。

ウチの身体が孕みやすいせいもあるんか、
夏休みが終わることには
ウチはしっかりこの人の仔を孕んどった。
「今日お医者にいってきたらな、あんたの仔できとったわ。
さすがやなぁ、ウチ、一発で仕込まれてしもたわ」

今まで何度も孕んだけど、
誰の仔かはっきりしてるんは初めてや。
なんか、この人のモノに
なったような感じがして、
ウチ嬉しいわ。
これが女の幸せっちゅうもんなんかいな。

二学期になると、
ウチは夏休み前と同じように
男たちと毎日姦りまくった。
ウチ、
孕んでると
よけいに
感じるように
なるんや。

「なんだ張飛、
また妊娠してんのかよ。
今さらだけど大丈夫なのか？
こんなに姦りまくってて」
「かまへんかまへん。
流れたら
そこまでの
仔やったちゅうことや。
がんがん突いて
この仔鍛えたってや」

そやけど結局
流れんかった。
強い仔や。
産むのが
楽しみやわ。

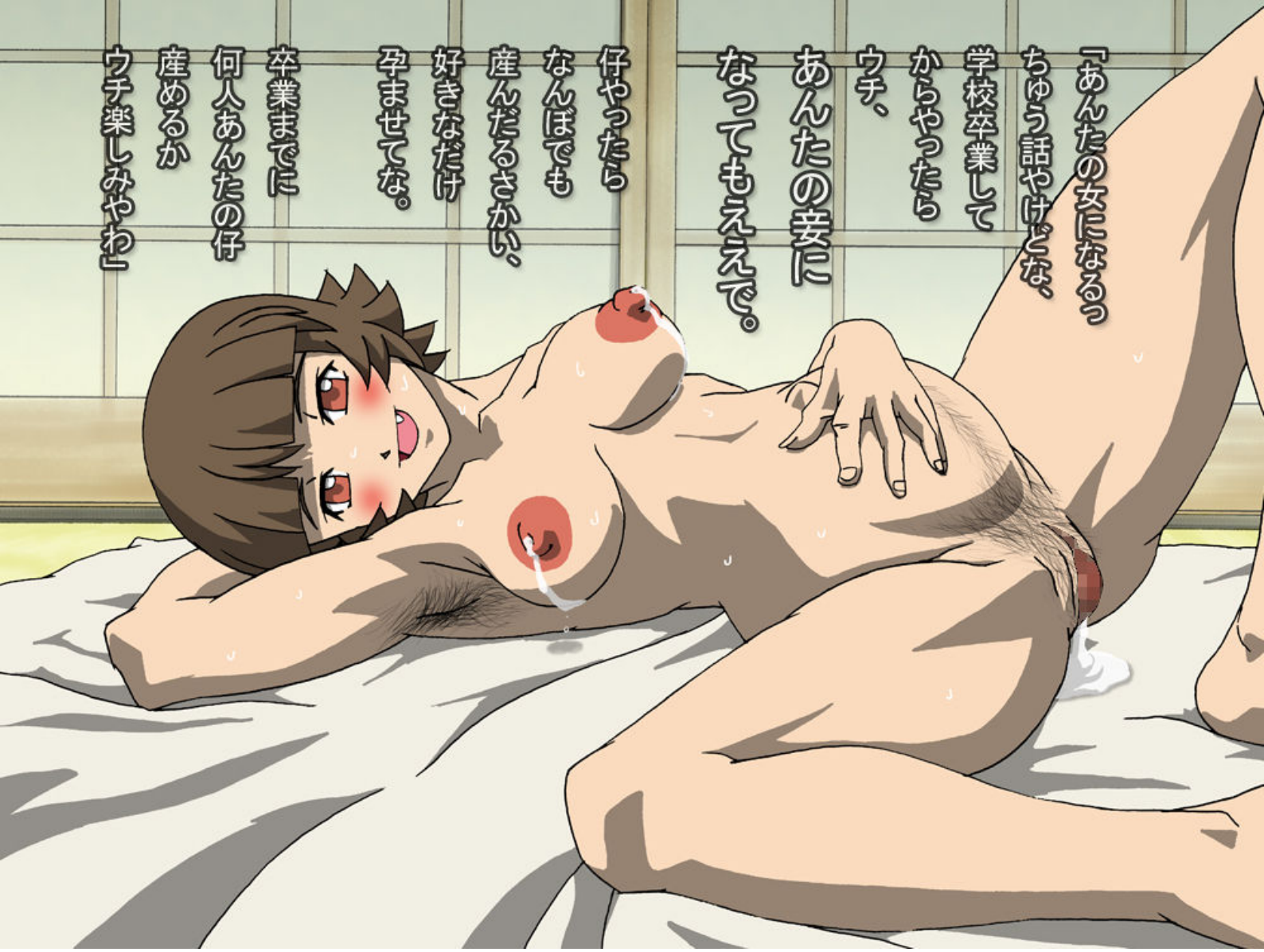
「あんだけ毎日いろんな男と姦ったのに
この仔全然平気やわ。
さすがあんたの仔やなぁ。
ウチ、あんたの仔孕んで正解やったわ」

この人の仔を孕んどるせいやろか、
やっぱりこの人と姦るんが
いっちゃん気持ちええわ。
お○こにこの人のチ○ポが入ってると、なんか幸せな気分になるんや。

お腹にこの人の仔がおると思うと、
この人のことが愛しいてたまらんようなる。
やっぱおなごは
孕まされると相手のこと
好きになってまうんやなぁ。

「なぁ、この仔産んだら、
またあんたの仔孕ませてな。
ウチ、もっと
あんたの仔欲しいんや」

最初はこの人の仔を
産むだけのつもりやったのに、
ウチ、すっかり手篭めにされてしもた。
今日説かれたら、ウチこの人のモノになってまうわ。


「あんたの女になるっ
ちゅう話やけどな、
学校卒業して
からやったら
ウチ、
あんたの妾に
なってもええで。
仔やったら
なんぼでも
産んだるさかい、
好きなだけ
孕ませてな。
卒業までに
何人あんたの仔
産めるか
ウチ楽しみやわ」